

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
情報社会と倫理 Information Society and Ethics		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、倫理学、哲学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
立川 聡子	本館2F	授業時間外		授業中に指示します
授業の概要				
<p>私たちは日常あたりまえのようにインターネットを使い、多くの情報から取捨選択をして必要な情報を得ている。情報技術は私たちの社会に豊かさ快適さをもたらしている一方で、不適切な使い方によって社会に不利益を与えている。情報社会の不利益を防ぐには、情報技術や法の整備だけでは限界があり、我々の倫理意識の醸成が必要である。</p>				
授業の目標				
<p>①情報社会の定義を説明することができるようにする。 ②個人情報の保護、知的財産権について、説明することができるようにする。 ③情報社会の諸問題について知識をもち、説明することができるようにする。</p>				
授業の方法				
講義形式での解説、受講者同士の意見交換、当日レポート、授業後・授業前レポート、発表を行う。				
学習の成果 (学習成果)				
情報社会の問題と情報倫理について知識をもって自分の考えを述べることができ、健全な情報社会に向けて行動することができる。社会的な課題に取組み解決する方法を考える、知識や技術を応用する、思いやり、社会への責任感を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	シラバスの説明、受講者とインターネットの利用について、意見交換を行う。			
第2回目	情報社会の定義と情報社会の抱える問題			
第3回目	個人情報…個人情報の保護、個人情報の漏えい、名誉棄損、プライバシーの侵害			
第4回目	知的財産…知的財産権、著作権、著作権の侵害、産業財産権			
第5回目	図書館の著作物…著作物の種類、媒体(紙・デジタル)、資料の引用、 レポート①			
第6回目	ソーシャルネットワークサービス(SNS)…個人プロフィールの公開、実名と匿名			

第7回目	インターネットのトラブル① 金銭トラブル、管理トラブル、心身トラブル
第8回目	インターネットのトラブル② コミュニケーショントラブル(詐欺などへの誘導、不適切な情報発信)
第9回目	炎上…炎上とは、不適切情報、噂の公式と炎上の公式、炎上予防、炎上トラブルに巻き込まれた場合 レポート②
第10回目	電子メール…電子メールの宛先、チェーンメール、メーリングリスト、掲示板・ブログ・プロフ
第11回目	インターネット犯罪…サイバー犯罪、不正アクセス、なりすまし、ネット詐欺、出会い系サイト
第12回目	情報技術セキュリティ…コンピュータウイルスとスパイウェア、ユーザーIDとパスワード、生体認証、フィルタリング
第13回目	情報倫理を考える…受講者によるディスカッションをおこなう、プレゼンテーション資料の作成
第14回目	情報倫理を学んだことで関心をもったテーマでまとめ、プレゼンテーションをおこなう。
第15回目	プレゼンテーションの総評とまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中している。分からないことは主体的に質問するなど自身で解決している。課題の準備を十分に行い、発表の態度、内容が模範的である。積極的に発言している。
レポート	50%	レポート、プレゼンテーション資料を作成する。S評価: 学修の観点を網羅している。論理的に述べている。発表資料はわかりやすく簡潔にまとめている。自身の言葉で表現している。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	30%	発表に備えて十分に準備している。自ら意欲的に発表に臨んでいる。話す言葉づかいが適切である。話す速度が適切である。声の大きさが適切である。言葉が明瞭でわかりやすい。話が論理的に展開されている。
その他		

教科書と参考図書

適宜、プリント配布。
 参考図書: 田代光輝、服部哲 『情報倫理 ネットの炎上予防と対策』 共立出版 2013年、情報教育学研究会 (IEC) 情報倫理教育研究グループ編 『インターネットの光と影』 北大路書房 2014年、その他適宜、紹介。

履修上の留意点・ルール

積極的な発言を求めます。